

岡山県感染症週報 2022年第39週 (9月26日～10月2日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2022年 第39週 (9/26～10/2) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第37週	2類感染症	結核	1名 (90代 男)
第38週	2類感染症	結核	1名 (20代 男)
	5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1名 (60代 男)
		梅毒	2名 (20代 女 1名、40代 男 1名)
第39週	2類感染症	結核	1名 (20代 女)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名 (O157:40代 女)
	4類感染症	重症熱性血小板減少症候群	1名 (60代 男)
		デング熱	1名 (30代 男)
		レジオネラ症	2名 (70代 男 1名・女 1名)
	5類感染症	梅毒	2名 (10代 女 1名、40代 女 1名)
	新型インフル	新型コロナウイルス感染症	4,739名
	エンザ等感染症		

ソーシャルディスタンス
・マスク・手洗い・換気!



© 岡山県「うらっち」

ワクチン接種も
大切!



© 岡山県「ももっち」

0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
763	836	621	716	719	432	268	204	127	53

【第40週 速報】

○新型コロナウイルス感染症 1,614名の発生がありました (10月3日～5日)。

1. **新型コロナウイルス感染症**は、2022年第39週に4,739名の報告があり (第38週は6,641名)、県内での2020年からの累計報告数は275,939名となっています。詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
2. **腸管出血性大腸菌感染症**は、2022年第39週に1名の報告があり、2022年の累計報告数は50名となりました (2021年の同時期:55名)。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)」をご覧ください。
3. **重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)** は、2022年第39週に1名の報告があり、2022年の累計報告数は4名となりました (2021年の同時期:6名)。この感染症は、病原体 (SFTSウイルス) を保有するマダニに刺咬されることで感染します。また、イヌやネコからの感染も報告されています。ダニに刺咬されないための予防対策等については[コラム](#)「[ダニが媒介する感染症に注意しましょう!](#)」をご覧ください。
4. **梅毒**は、2022年第39週に2名の報告があり、2022年の累計報告数は145名となりました (2021年の同時期:111名/1999年の感染症法施行以降で最大の年間報告数となった2019年 (年間報告数:190名) の同時期:143名)。全国の発生状況は第38週までの累計報告数が8,970名 (2022年9月28日時点) となり、1999年以降で最大の年間報告数となった2021年の7,978名を既に超えています。全国的にこれまでにない勢いで報告数の増加が見られており、注意が必要な状況です。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ「[梅毒について](#)」をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	➡	★	RSウイルス感染症	➡	★★
咽頭結膜熱	⬇		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	★
感染性胃腸炎	➡	★	水痘	➡	★
手足口病	➡	★	伝染性紅斑	➡	
突発性発疹	➡	★	ヘルパンギーナ	➡	★
流行性耳下腺炎	⬆	★	急性出血性結膜炎	➡	
流行性角結膜炎	⬆	★	細菌性髄膜炎	⬆	★
無菌性髄膜炎	➡		マイコプラズマ肺炎	➡	
クラミジア肺炎	➡		感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	➡	

【記号の説明】 前週からの推移: ⬆: 大幅な増加 ➡: 増加 ➡: ほぼ増減なし ⬆: 減少 ⬇: 大幅な減少
大幅: 前週比100%以上の増減 増加・減少: 前週比10～100%未満の増減

発生状況: 今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)

空白: 発生なし ★: わずか ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

今週の注目感染症

★新型コロナウイルス感染症

●新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症は、世界中で感染が拡大している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m以内）で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空気中に留まりうることから、換気不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。予防接種が進められており、10月4日までに全人口の80.4%が2回、65.5%が3回のワクチン接種を完了しています。また、60歳以上の高齢者や18歳以上で基礎疾患を有する方等で3回目接種から5か月以上経過した方への4回目の追加予防接種が進められています（該当高齢者の約8割で接種が完了しています）。さらに、オミクロン株対応2価ワクチン（従来株とオミクロン株に対応）の接種が、岡山県では9月28日から始まりました。

●症状

現在日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が2～3日と、従来流行していた株（デルタ株など）と比較し短くなっています。また、上気道で増殖しやすい特性から、従来株に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後半期（21週以降）などに重症化する割合が高いことが分かっていますが、ワクチン接種が重症化を予防する可能性があると考えられています（[日本におけるCOVID-19妊婦の現状（日本産婦人科学会、2022年6月7日付報告）](#)）。なお、り患後症状（いわゆる後遺症）については、こちらをご覧ください。→ [罹患後症状のマネジメント・第1.1版（2022年6月17日発行）](#)

●報告方法について

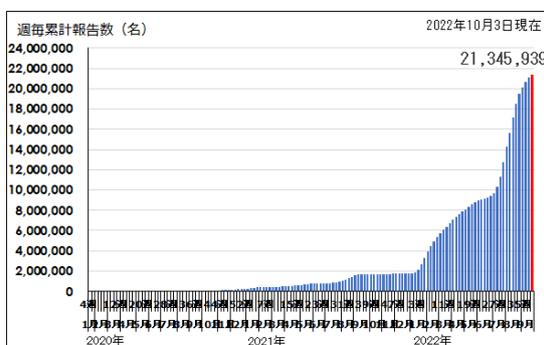
2022年9月26日から全数把握の方法が変更されました。全数届出対象者は65歳以上の者等に限定され、対象者以外は検査キット陽性者登録センター等への登録制になりました。

●発生状況

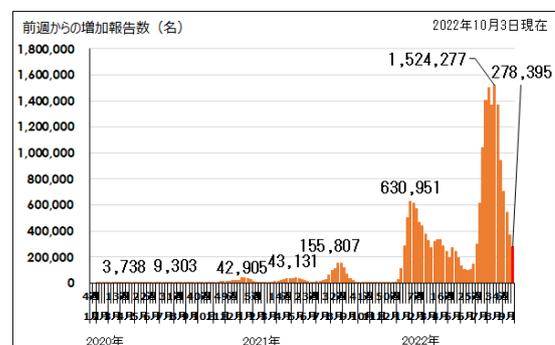
・全国

2022年10月5日0時現在まで、国内感染者は累計で21,426,855名、国内死亡者は45,157名、重症者は160名となっています（厚生労働省ホームページより）。

全国の新規感染者数は、減少が継続していますが、一部の地域では減少速度が鈍化しています。今後、連休や観光による接触機会の増加等による感染状況への影響が注視されます。療養者数、重症者数および死亡者数は減少が継続していますが、重症者数および死亡者数は下げ止まりの傾向がみられます。今後の見通しとして、過去2年間の傾向から今冬の本感染症の流行拡大や、季節性インフルエンザの例年よりも早期の流行と両感染症の同時流行が懸念されています。

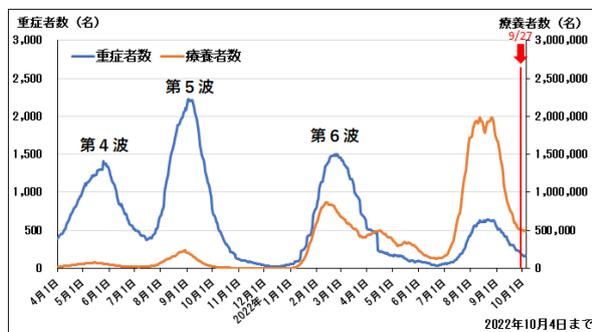


全国 週毎累計感染報告数 厚労省 HP より
(2022年第39週まで(～2022/10/2))

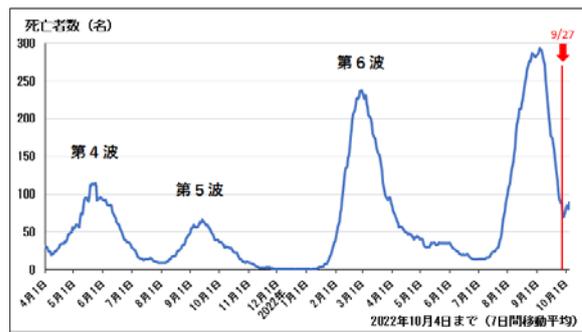


全国 週毎増加感染報告数 厚労省 HP より
(2022年第39週まで(～2022/10/2))

※全数把握方法が変更された2022年第39週の報告数は赤で表示(岡山県の同グラフについても同じ)



全国 重症者数・療養者数の推移
(厚生労働省オープンデータより(2022年10月4日まで))

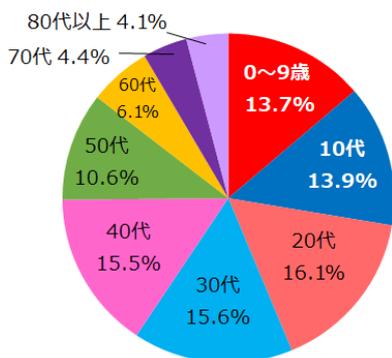


全国 死亡者数(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年10月4日まで))

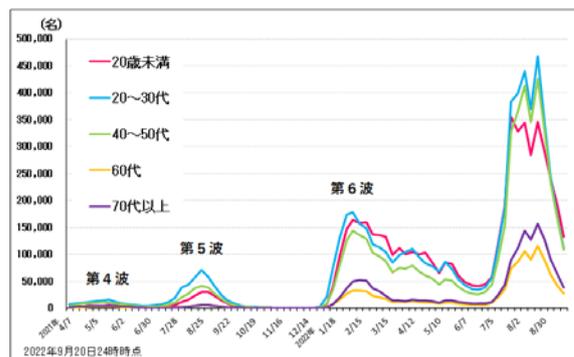
全国(岡山県含む)の直近の年代別新規陽性者関係の情報は次をご覧ください。

[第101回アドバイザリーボード 資料2-2](#)

〈参考〉



厚労省 HP より(2022年9月20日24時時点)
全国 年齢階級別累計割合



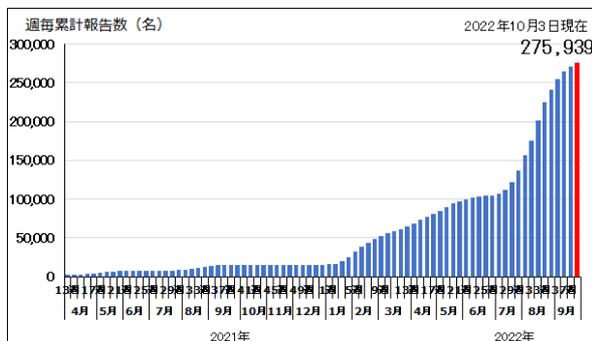
厚労省 HP より(2022年9月20日24時時点)
(2022年5月3日のデータは感染研HPより独自集計)
全国 年齢階級別発生状況

・岡山県(最新情報)

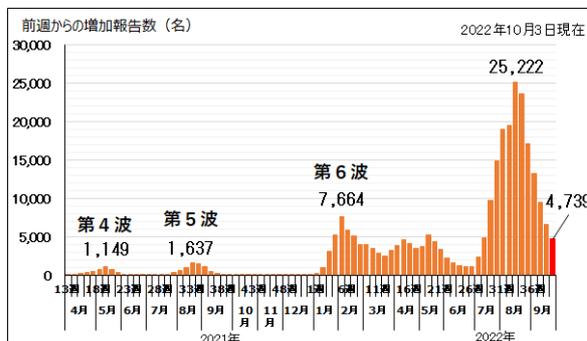
2022年10月6日0時現在まで、岡山県の感染者は累計で277,553名、死亡者は410名(9月29日～10月5日までの1週間で5名増加)となっています。高齢者施設・医療機関などでクラスターが発生しています。直近1週間の新規感染者数は、全国と同様に減少が続いています。ワクチン接種とともに、基本的な感染予防策(3密(密閉・密集・密接)の回避、マスクの正しい着用、手洗い、換気など)の徹底に留意しましょう。また、高齢者や基礎疾患があるなど重症化リスクの高い方や日常的にそれらの方と接する方は、混雑した場所への外出など感染リスクの高い行動を控える、体調が悪い場合には外出を控える等、日々の活動面にも留意しましょう。

2022年 第40週 速報 1,614名 年齢階級別発生状況一覧表

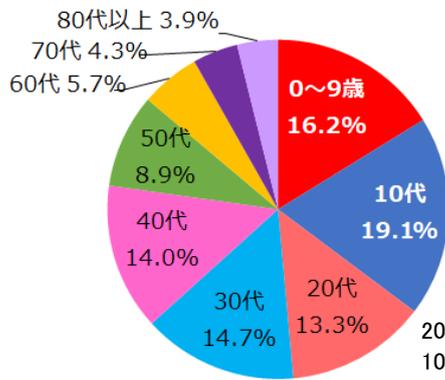
0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
283	354	213	217	198	142	81	62	43	21



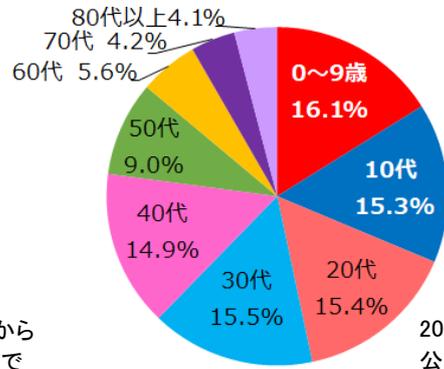
岡山県 週毎累計感染報告数 (第39週まで)



岡山県 週毎増加感染報告数 (第39週まで)

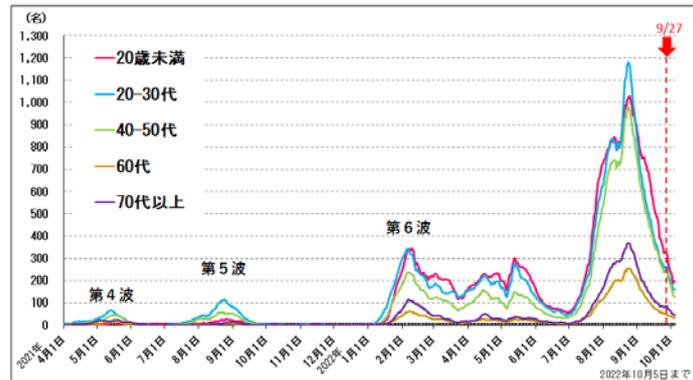


2022年9月27日から
10月5日公表分まで

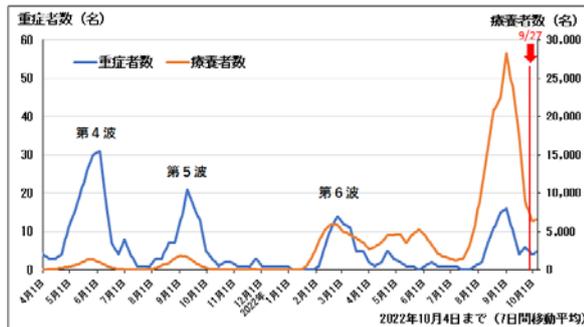


2022年9月26日
公表分まで

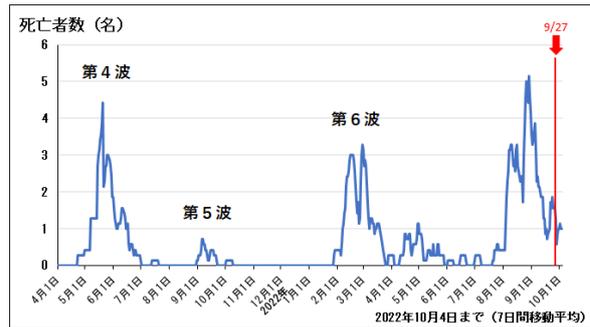
岡山県 年齢階級別累計割合



岡山県 年齢階級別発生状況(7日間移動平均、10月5日まで)



岡山県 重症者数・療養者数の推移(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年10月4日まで))



岡山県 死亡者数(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年10月4日まで))

【発熱や風邪のときは「かかりつけ医」等にご相談を！】

新型コロナウイルス感染症は、発熱や咳などで始まることが多く、一般的な風邪や、インフルエンザと初期症状が似ています。

こうした症状がある場合は、無理をして学校や職場等に行かないようにして、「発熱外来」で相談・診療・検査をしましょう。

なお、医療機関を受診する際は、必ず事前に電話予約をし、受診時はマスクを着用してください。

詳細は、岡山県ホームページ → [新型コロナウイルス感染症に関するコールセンター](#)

＊子どもの予防接種を確実に！＊



厚生労働省リーフレットより

新型コロナウイルス感染症の流行による影響から、子どもの定期予防接種率の低下が懸念されています。

接種期間内の方は、早めに予防接種を済ませましょう。

予防接種に関する疑問点などは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

[遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診（厚生労働省）](#)
[予防接種スケジュール（国立感染症研究所）](#)

風しんの抗体検査(無料)を受けましょう！

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群（CRS）※の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます（岡山県健康推進課）](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています（**2025年3月31日まで**）。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群（CRS）と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

3年間延長
されます！

岡山県の2019年4月～2022年5月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、32.4%(4月までは31.9%)と未だに低い状況です！

CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう！

[風しんの追加的対策について（厚生労働省）](#)
[風疹に関する疫学情報（国立感染症研究所）](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト（日本産婦人科医会）](#)



© 岡山県「ももっち・うらっち」

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)*、日本紅斑熱、つつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(ディートやイカリジンを含む)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。
体調不良の動物や野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)
- ⇒ [日本紅斑熱とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [ツツガムシ病とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)



吸血後の
フタゲチマダニ♀



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 画像

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中です！

- 「清潔」(菌をつけない)
 - ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
 - ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
 - ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。
- 「迅速・冷却」(菌を増やさない)
 - ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
 - ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
(生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。)
- 「加熱」(菌をやっつける)
 - ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
 - ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう(腸管出血性大腸菌は、75℃、1分間以上の加熱で死滅します)。



0157の電子顕微鏡画像
(国立感染症研究所)

[食中毒予防の3原則 \(岡山県生活衛生課\)](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント \(厚生労働省\)](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント \(厚生労働省作成チラシ\)](#)

保健所別報告患者数 2022年 39週(定点把握)

(2022/09/26～2022/10/02)

2022年10月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17	-	-	-	-
RSウイルス感染症	48	0.89	21	1.50	12	1.09	-	-	4	0.57	9	2.25	-	-	2	0.33
咽頭結膜熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.13	2	0.14	4	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
感染性胃腸炎	131	2.43	45	3.21	15	1.36	40	4.00	5	0.71	7	1.75	1	0.50	18	3.00
水痘	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	38	0.70	22	1.57	9	0.82	-	-	6	0.86	1	0.25	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	17	0.31	8	0.57	5	0.45	2	0.20	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	2	0.04	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	0.09	3	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2022年 39週(発生レベル設定疾患)

(2022/09/26～2022/10/02)

2022年10月6日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17	-	-	-	-
咽頭結膜熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.13	2	0.14	4	0.36	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
感染性胃腸炎	131	2.43	45	3.21	15	1.36	40	4.00	5	0.71	7	1.75	1	0.50	18	3.00
水痘	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病	38	0.70	22	1.57	9	0.82	-	-	6	0.86	1	0.25	-	-	-	-
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	0.04	-	-	2	0.18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	5	0.09	3	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	0.17	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2022年 第39週 2022/09/26～2022/10/02)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	48	8	7	17	9	4	1	-	-	-	-	-	-	2	
咽頭結膜熱	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	-	-	-	1	1	2	1	-	-	-	2	-	-	
感染性胃腸炎	131	3	13	24	17	10	5	4	6	3	1	2	18	6	19
水痘	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
手足口病	38	-	6	16	7	4	1	2	1	-	1	-	-	-	
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	17	-	3	12	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	2	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	5	-	-	-	-	2	-	-	2	-	-	1	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

2022 年 39 週

分類	疾病名	2022			疾病名	2021			疾病名	2022			2021
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	192	250	ジフテリア	-	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	50	82	
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-	
四類	E型肝炎	-	2	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	-	
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	1	
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	1	4	6	
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	4	
	デング熱	1	1	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	-	6	9	日本脳炎	-	-	-	
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	2	-	
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	2	31	57	
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	
	五類	アメーバ赤痢	-	9	14	ウイルス性肝炎	-	1	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	14	32
		急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	-	1	急性脳炎	-	5	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	2	4	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	4	4	後天性免疫不全症候群	-	4	13	
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	-	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-	
侵襲性肺炎球菌感染症		-	17	17	水痘(入院例に限る。)	-	2	9	先天性風しん症候群	-	-	1	
梅毒		2	145	160	播種性クリプトコックス症	-	3	1	破傷風	-	2	1	
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	-	百日咳	-	13	15	
風しん		-	-	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	
※	新型コロナウイルス感染症	4,739	260,379	14,120		-	-	-		-	-	-	

※新型インフルエンザ等感染症

